

## NICU を退院した低出生体重児と家族に対する離乳食支援方法（課題研究）

### **Methods for Family to Support Feeding Low Birth Weight Infant after Discharge from NICU**

小児看護学専攻 上級実践コース 田上鮎美

本研究は、NICU を退院した低出生体重児と家族の 5 事例を対象に、研究者の作成したアセスメントシートを元に、子どもと家族の能力をアセスメントし、課題を抽出した上で実践した離乳食支援の関わりを記述した事例研究である。研究目的は、NICU から退院した低出生体重児と家族に対する離乳食支援方法を検討することである。

アセスメントシートを活用した上で、離乳食支援を実施するにあたってはアセスメント項目の発達、健康逸脱、呼吸状態、水分、栄養、排泄、活動と休息、社会的相互作用、危険予防、社会集団の中の機能と発達の促進の項目全てが関係していた。

アセスメントシートを活用し、導き出された子どもの課題は、5 事例の全ての子どもが体重増加不良、または体重増加不良のリスクがあった。その原因として、貧血、甲状腺機能低下症、気管支炎、慢性閉塞性肺疾患の疾患により成長発達を阻むものと、易感染性、呼吸器疾患が、哺乳力低下を招き、栄養摂取量が低下することが原因であった。家族の課題は、体重増加という目標を持ち、子どもと関わっていた。家族は子どものケアの為に、フォローアップ外来、保健センターでの様々な情報を活用し、子どものケアを行っていた。しかし、家族は、フォローアップ外来、保健センターで指導された内容が異なる為、家族は情報を取捨選択し、修正し利用していた。

フォローアップ外来での低出生体重児と家族に対する看護の役割として、多職種との連携や、保健センターとの連携、子どもの発育発達を阻害する原因をアセスメントし、家族のケア能力を高めること、NICU に入院中から、子どもと家族の状況を把握し、信頼関係を気づき関わること、個々の低出生体重児と家族の問題・課題を見極め、看護展開をしていくことが必要であった。以上のことから、低出生体重児と家族に対する離乳食支援を実施する為には、児の発達や全身状態の把握の為のフィジカルアセスメントの実施、器質的疾患の評価、アセスメント能力、子どもと家族とのコミュニケーション能力、多職種連携や他施設との調整が必要であった。その為、それらの能力を持ち合わせている上級実践看護師が実施していく必要性が見出された。また、離乳食支援は子どもと家族の状況から継続的に関わる必要があり、看護過程の展開を実施していく必要があり、NICU のフォローアップでアセスメントシートを活用した上で、離乳食支援を実施する看護外来の確立を今後の課題とする。